

模擬首長選挙・模擬地方議会を通し、将来の主権者育成を目指した中学校における政治学習

1 校種・教科・科目（分野） 中学校・社会科・公民的分野

2 単元名 区市長になろう！（模擬首長選挙、模擬地方議会）

3 学習指導要領上の位置付け C（2）民主政治と政治参加

4 カリキュラムマップとの関連性 市民の権利と責任

5 単元目標

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性
<ul style="list-style-type: none">地方自治の基本的な考え方を理解する。地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解する。様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択し、活用する。	<ul style="list-style-type: none">地方公共団体の政治に関し、多面的・多角的に考察し、民主的な政治の在り方について様々な考え方や立場から公正に判断して、その過程や結果を他者にわかりやすく表現する。現代社会をとらえる見方や考え方の基礎としての「対立と合意」、「効率と公正」の視点を活用し、考えている。	<ul style="list-style-type: none">地方公共団体の政治に対する関心を高め、その課題を意欲的に追究しようとする。住民としての自治意識を基礎として、これからのよりよい地域社会の形成に主体的に参画し、構想しようとし、そのために解決すべき課題を考え続けようとする。

6 単元の特色（教材観）

教育基本法第十四条に「良識ある公民として必要な政治的教養は、教育上尊重されなければならない。」とあり、この「政治的教養」は、「民主政治、政党、憲法、地方自治等、民主政治上の各種制度についての知識」だけではなく、「現実の政治の理解力及びこれに対する公正な批判力」や「民主国家の公民として必要な政治道徳、政治的信念」の育成を図らなければならない。これを受け学習指導要領中学校社会科公民的分野の大項目C中項目「（2）民主政治と政治参加」の解説に地方自治学習において「地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成する」とし、「地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育成することが大切である。」と明記されている。そこで、自らが自らを治めるという民主政治の基本となる考え方の育成を目指し、地域住民によって選出された代表者が治めるという代表民主制の仕組み等を理解し、民主主義に関する理解を深め、主権者としての政治参加の在り方について考えさせる。

7 単元計画

次	時	項目	学習活動
事前		○地域の課題を知る	○保護者等の身近な主権者に、地方自治体が行っている世論調査と同じ内容の調査を行い、その結果を集計し、課題を発見し、公約作りの参考資料とする。
第1次 模擬首長選挙等の準備	1	○政治参加の方法 ○地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎 ○地方公共団体の政治の仕組み ○民主政治を推進するための国民の政治参加	○事前調査に回答する。 ○地方公共団体の仕組みを知る。 ○「住民のための政治はいかにあるべきか」の学習課題を追究する。 ○「地方自治は民主政治の学校」の意味を考える。
	2	○地域の願いや要望の解決策を考える。 ○選挙の意義について考える。	○既習の人権学習の課題から1つと地方自治体の世論調査結果と同内容の保護者等へのアンケート結果を踏まえ、選挙公約を2つ作り、合わせて3つ選挙公約をつくる。
	3	○模擬首長選挙	○選挙準備(選挙公報(「スローガン」「選挙公約」「候補者のプロフィール」)、立会演説会用タスキ、選挙ポスターの作成をする。
第2次 模擬首長選挙、模擬地方議会	4	○模擬首長選挙	○模擬区長選挙を行う。 ○立会演説会を行う。 ・候補者の立会演説。 ・質問と答弁。 ○投開票を行う。 ↓事後学習 ○当選した首長班は政策の再検討、所信表明演説の準備を行う。 ○落選したした他の班は、野党として代表質問の準備を行う。
	5	○模擬地方議会	○当選した模擬首長が所信表明演説を行う。 ○他の班の候補者は野党として、代表質問を行う。 ○与党は、それぞれ答弁を行う。 ○模擬的な条例の制定を行う。

第3次 地方自治学習のまとめと振り返り	6	○地方自治学習のまとめ、振り返り	○模擬首長選挙、模擬地方議会を振り返り、「住民のための政治、今日から私たちにできることは？ー住んでいるまちをよりよいまちにし、よりよい社会にするためには？ー」について考える。 ○自治意識の基礎として、「私たち個人が行うべきこと」、「地方公共団体などの社会が取り組まなければならないこと」、「国際社会が取り組まなければならないこと」について思考・判断する。 ○自らが政治の主体であることを意識する。
	7		○「自分たちの要望を政治上に実現させるためには、どのような取り組みが必要か。」について考え、レポートを作成する。 ○事後調査に回答する。

8 カリキュラム・マネジメント

地理的分野の大項目C中項目「(4)地域の在り方」の学習で構想した課題やその内容、歴史的分野の大項目C中項目(2)「現代の日本と世界」の学習で構想した課題やその内容を活用し、本学習における模擬首長選挙における公約とさせることも考えたい。また、指導計画でも述べたように、公民的分野の大項目C中項目「(1)人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」の学習における人権課題を公約の1つとして取り上げることも、実施することが考えられる。本実践は、1年生から現行の学習指導要領に基づいた授業実践をしていないため、公民的分野の大項目C中項目(1)の人権学習において習得し、課題とした人権課題だけを公約作りに活用させた。

それから、学校長や学年の教職員の了解のもと保護者にも協力していただき、模擬首長選挙の投票実施の際、保護者にも投票していただくことも生徒の学習への興味・関心の向上に資する。また、ピグマリオン効果も期待できる。

8 本時の授業展開(第4時)

(1) 本時の展開

学 習 活 動	支援・指導上の留意点	評価規準・資料
模擬区長選挙 ○立会演説会を行う。 ・候補者の演説 ・質問と答弁	○選挙公報を配布する。 ○ワークシートの項目に沿って候補者の政策を記録させ、質問事項等も考え	思考・判断・表現 ○地方自治に関する様々な

場 所 : 3年 組教室

選挙 (投票) : 令和2年10月14日 11:05頃～

開票 (即時) : 投票後すぐに (予定)

<政党名、立候補者名、スローガン> + 投票結果

喧嘩A党	A R	0票
誰でもかかってこい!		
B先生からパソコンを守る党	B G	8票
生徒による生徒のための授業		
C党	C T	0票
王政復古、我らによる絶対王政の実現		
Dあげ弁党	D Y	22票
伝説のストリートシンガー		
Eブラ大乱党	E K	5票
任天堂に感謝を!		
F妻弁党	F K	0票
人を暖かく包みこむ弁当のように、優しい未来をつくります。		
		合計 35票

9 生徒の学習成果とその評価

(1) 学習のまとめレポートの評価結果

ア 評価基準

学習のまとめのレポートの評価基準は、以下の通りである。

i) 「私は何をするの?」の評価基準

以下の内容記述が、3つ以上ある場合A、2つ記述がある場合B、1つしかない場合C

- ① 自分の問題と捉えている(「切実性」や「当事者性」)を読み取れる記述がある。
- ② 具体的な記述がある(一般的、抽象的ではなく)。
- ③ 多面的・多角的に記述している。
- ④ 根拠を明確にして、記述している。
- ⑤ 「近現代史学習」や「現代社会学習」や「社会における物事の決め方学習」、「人権学習」の既習内容を活用した記述がある。

ii) 「社会は何をするの?」の評価基準

以下の内容記述が、3つ以上ある場合A、2つ記述がある場合B、1つしかない場合C

- ① 多面的・多角的に記述している(批判的に検討したり、反対側の立場からも述べていたりする)。

- ② 根拠を明確にして、記述している。
- ③ 具体的な記述がある(一般的、抽象的ではなく)。
- ④ 異なる別な視点からやオリジナルな視点から述べている。
- ⑤ 「近現代史学習」や「現代社会学習」や「社会における物事の決め方学習」、「人権学習」の既習内容を活用した記述がある。

iii) 「国際社会は何をするの？」の評価基準

以下の内容記述が、3つ以上ある場合A、2つ記述がある場合B、1つしかない場合C

- ① 多面的・多角的に記述している(批判的に検討したり、反対側の立場からも述べていたりする)。
- ② 根拠を明確にして、記述している。
- ③ 具体的な記述がある(一般的、抽象的ではなく)。
- ④ 海外の事例の紹介やこれから知ろうとする事柄が明記してある(既習事項の「人権」や「国際社会」からの視点等を踏まえ)。
- ⑤ 「国際協力の必要性」や「国際比較」等の記述がある。
- ⑥ 国際的な活動の周知に関する記述がある。
- ⑦ 訪日外国人に日本を紹介する内容等の記述が見られる。
- ⑧ メディアリテラシーについての記述が見られる。

イ 評価結果

地方自治レポート評価結果表(3年全クラス)						
	①「私は何をするの？」 (人)	割合 (%)	②「社会は何をするの？」 (人)	割合 (%)	③「国際社会は何をするの？」 (人)	割合 (%)
A	48	32.9	39	26.7	15	10.3
B	81	55.5	90	61.6	103	70.5
C	9	6.2	9	6.2	20	13.7
未提出	8	5.5	8	5.5	8	5.5
合計	146	100.1	146	100	146	100

「私は何をするの？」(←生徒自身が今後どのような行動を行うのかについて問うている)のAとB評価の生徒は、学年全体の約90%であり、②「社会は何をするの？」(←身近な地域社会等が何を行うべきなのかを問うている)も、約90%であったことから、この2つの問いかは、有効な「問い」であったと考えられる。また、③「国際社会は何をするの？」(←国

際社会の中の国際機関等は何をすべきかの問い)の合計は約 80%と若干下がっていた。これは、地方自治の学習で、「国際社会」の視点からの考察は少し、難しかったためと推測される。

「私は何をするの？」のレポートでは、例えば、Aさんは「この街の課題とその解決策を考える。自分なりの理想像をつくっていく。これまで考えてきた理想像を基にして、首長選や議会議員選挙で投票する。その際、候補者の公約を検討する。」と記述し、Bさんは「挨拶をする(地域の人とのコミュニケーション促進→地域理解向上)。政治等の接触機会増(政治関心向上等)→選挙参加容易にする。政治等の接触機会増習慣継続→選挙に生かす。住民アンケート積極的参加。→自分の意見を地域に反映。(一部簡略して表記。)」と記述していた。

「社会は何をするの？」のレポートでは、例えば、Cさんは「地域社会は何を」の記述では、「地域社会において育児しやすい環境を作ることによって、誰もが安心・安全に暮らせるような地域との関係を作れる場を設ける。」「地方公共団体では何を」の記述では、「地域社会だけではできない施設を建たり、シングルマザーに対する支援を行う。子供が安全に遊べる環境作りを積極的に行う。」と記述していた。Dさんは、「地域社会は何を」の記述では、「住民が自治会などの集まりに参加するように呼びかける。また、自治会で出たこの地域の問題や住民の声を区や都へ伝え。政策として行ってもらえるようにする。(以下省略)」、「地方公共団体では何を」の記述では、「各自治会から出た地域の問題を政策に反映させる。そして、資金不足で行えない政策や県をまたいだ政策を国に支援してもらおう。(以下省略)」と記述していた。

「国際社会は何をするの？」のレポートでは、例えばEさんは「国際社会としては」…「海外で取り組んでいる政策や活動を学び、自分のまちや国で取り入れることが重要。他の国と情報を交換し、よいと思ったものを取り入れることができれば自分のまちや国ももっとよりよいものにすることができるし、外国との交流のきっかけにもなる。」と記述していた。Fさんは「国際社会の一員としては」…「異文化理解を高め、例えばアメリカでの政策や仕組みを知り、日本と比べてみたりして、関心を高める。」さらに、外国と日本を客観的に比べて、日本でも活用できる政策等を探したり、協力できるようなことをしたり、まねをする。(以下省略)」と記述していた。Gさんは「国際社会の一員としては」…「近年、地球温暖化などにより自然災害が大きくなってきており、排出ガス規制や伐採などの環境破壊、ゴミ問題などの地球規模の環境問題に対して、国際社会の一員として真剣に取り組んでいくことが重要だと思う。(以下省略)」と記述していた。

ウ 振り返りカード(チャレンジカード)の主な記述内容(あるクラスの一部のみ掲載)

番号	チャレンジカード「この単元を通して、最も力を入れて取り組んだことを書きましょう。」の主な記述内容
1	自分が住む地域について身近に感じることを頑張ったが、自分の住む地域についてほとんど何も知らないことに気づかされた。自分が住んでいるわりには、知識がなく、自分の言葉で説明するのに大変だった。そのため、タス

効であり、主体的に課題を解決しようとする生徒の育成を図ることができたと考える。

① 政治的関心の向上

レポートの分析結果でAとBの評価の生徒が、は約80%であったことや事前事後の政治意識調査結果の分析から、「政治的な事柄を話題にする割合(「毎日ある」と「週に何回かある」と回答した生徒の割合)が、10ポイント以上増加していることなどから、生徒の政治的関心が向上していることが分かる。

② 国・地方公共団体の政治への関心の向上

政治的関心の向上も見られた。「非常に関心がある」「ある程度関心がある」との事後の回答が、16ポイント以上増加した。

③ 政治参加意識の向上

「政府(自治体)のすることに対する影響力」について、「そう思わない」と「どちらかというと思わない」の回答割合が、10ポイント以上減少している。

イ レポートの有効性

地方自治の課題を将来の主権者として主体的に記述することができるようになってきた。例えば、Xさんは「私は」の記述を踏まえ、「社会はどのようになること期待？」に対し、「選挙の投票率が上がり、多くの人の意見が反映され、住んでいる街が今よりよりよい街になる。また、様々な立場から物事を考えられるようになることで、誰もが不便を感じる事がなくなり、たくさんの人の意見が取り入れられた街になる。」と記述している。Yさんも、「私は」の記述を踏まえ、「一人一人が地域への関心をもち、顔見知りが増え、安心感ができる。お互いが信用できることで、犯罪や虐待、お年寄りの孤独死などの問題が減る。また、災害時の連携がしやすくなる。」と記述している。このように記述する生徒を育成することができたことでレポートの有効性が分かる。

ウ 政治意識の向上³⁾

政治信頼度は、「選挙制度」への信頼が、9ポイント上昇していた。また、「政党」への信頼は、約14ポイント向上したことから政治信頼度が向上したと考えられる。さらに、政治的有効性感覚も10ポイント以上向上していた。以上のことから政治信頼度、政治的有効性感覚、そして、アの①から政治的関心も増加しており政治意識が向上したと考える。

3) 政治的関心、政治的有効性感覚、政治信頼度などの他に、時間などに関する政治的費用(コスト)なども考えられるが、ここでは、まとめて政治意識と捉えることとする。

[参考文献]

- ・秦 正樹「若年層の政治関心に与える政治的社会化の効果—学校と家庭における政治教育に注目して—」、2013、六甲台論集・法学政治学篇・60(1)
- ・山本英弘「政治的社会化研究からみた主権者教育」、2017、山形大学紀要(教育科学)第16巻第4号

10 「18歳市民力」育成に向けての提案

「18歳市民力」育成とは、中学校社会科の担当者からすると「将来の主権者の育成」ということになる。そこで、本実践のような教育実践を積み上げなければならないと考える。つまり、「地方自治の基本的な考え方を理解」し、「地方公共団体の政治に対する関心を高め」、「住民としての自治意識」を基礎として、これからのよりよい地域社会の形成に「主体的に参画し、構想」しようとする将来の主権者の育成を図らなければならない。そのため、模擬的な首長選挙、模擬的な地方議会、さらに、模擬的な条例の制定という学習活動を行うことで、生徒は模擬的ながらも選挙、議会等を経験し、自らが「主権者」として、近い将来行動すべきと考えるようになると思われる。

仲村秀樹(江東区立深川第七中学校)